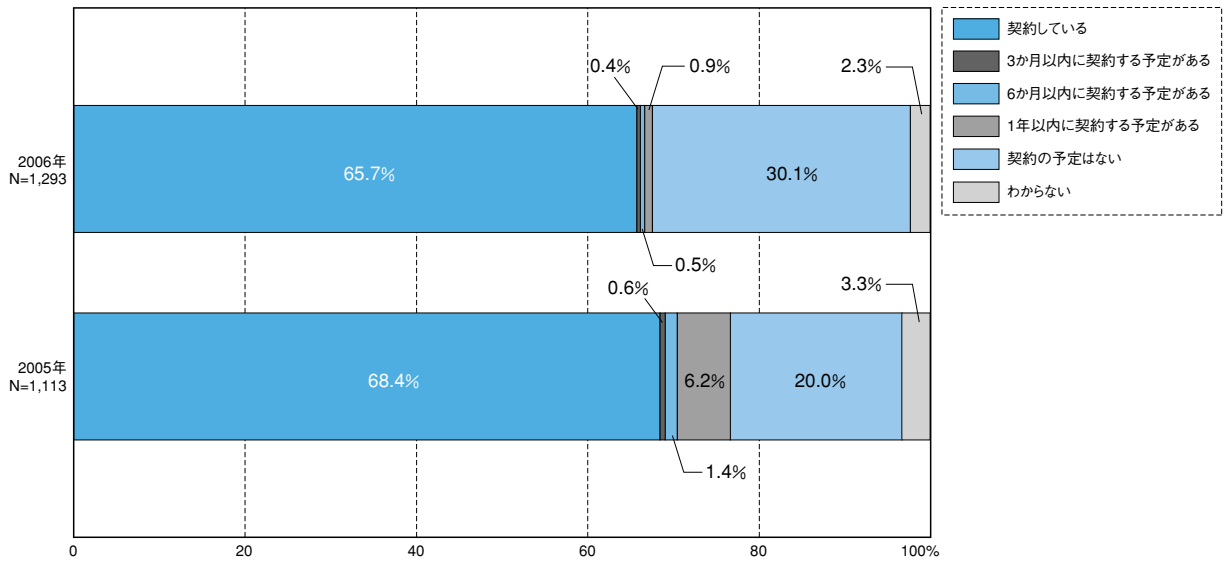


## 携帯電話とモバイルセントレックス

### 65.7%が法人向け携帯電話サービスを利用

資料3-2-14 法人向け携帯電話サービスの契約有無 [2005年-2006年]

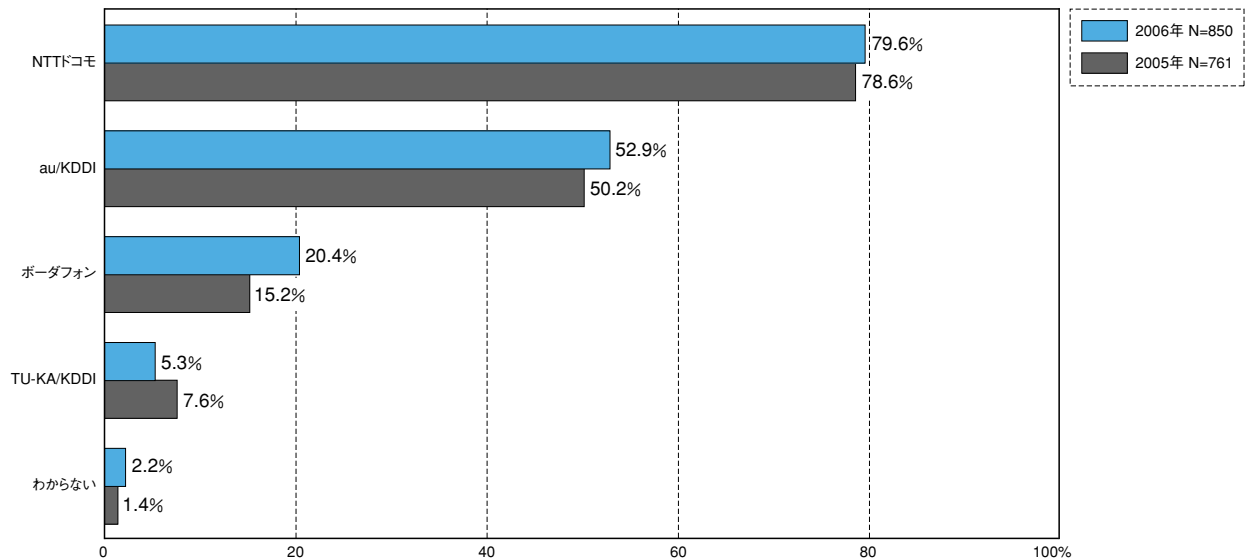


©Access Media/impress R&D,2006

携帯電話の法人契約率は、65.7%である。従業員規模別では大規模企業ほど契約率が高く、契約予定率も高い。対照的に小規模では契約・契約予定ともに低い。これは大量契約によるディスカウントが見込めないことや、ビジネス利用でも個人名義の携帯電話を利用し、随時清算するシステムをとっているためと思われる。

### 契約サービス事業者トップは79.6%の「NTTドコモ」

資料3-2-15 法人向け携帯電話サービスの契約事業者（複数回答） [2005年-2006年]



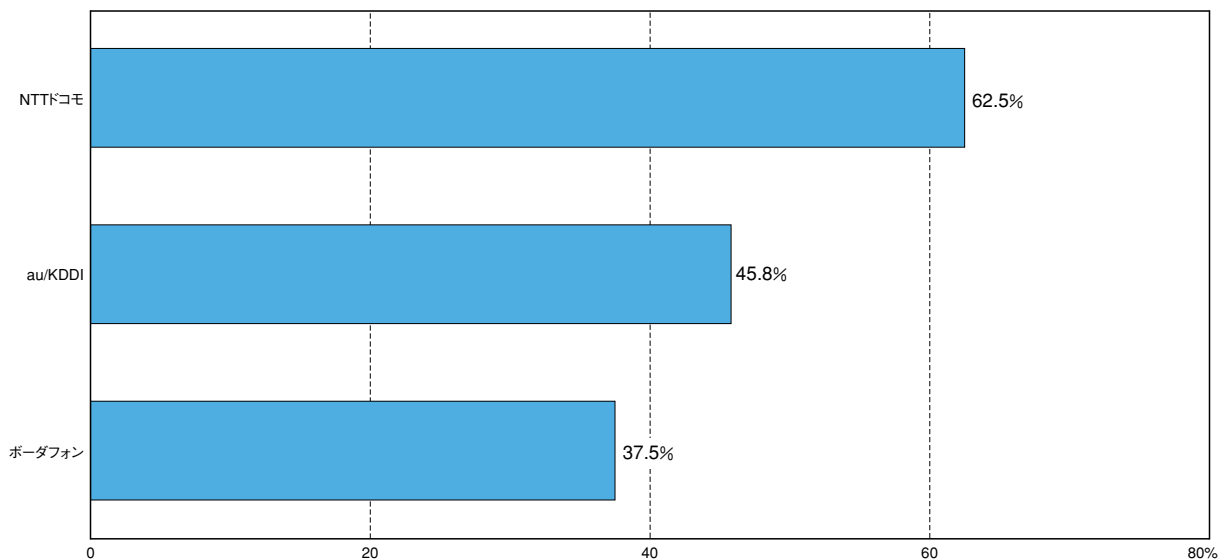
©Access Media/impress R&D,2006

法人向け携帯電話サービス契約者の契約先は、「NTTドコモ」が79.6%で最も高く、次いで「au/KDDI」52.9%、「ボーダフォン」20.4%と続く。TU-KAはKDDIグループ傘下に入ったことからau/KDDIのシェアが今後は伸びると思われる。大規模企業ほど、複数の携帯電話会社と契約している傾向もみられる。

## 携帯電話とモバイルセントレックス

### 現在の契約状況と同様にNTTドコモがトップ

資料3-2-16 今後法人契約をする予定の携帯電話事業者（複数回答） N=24

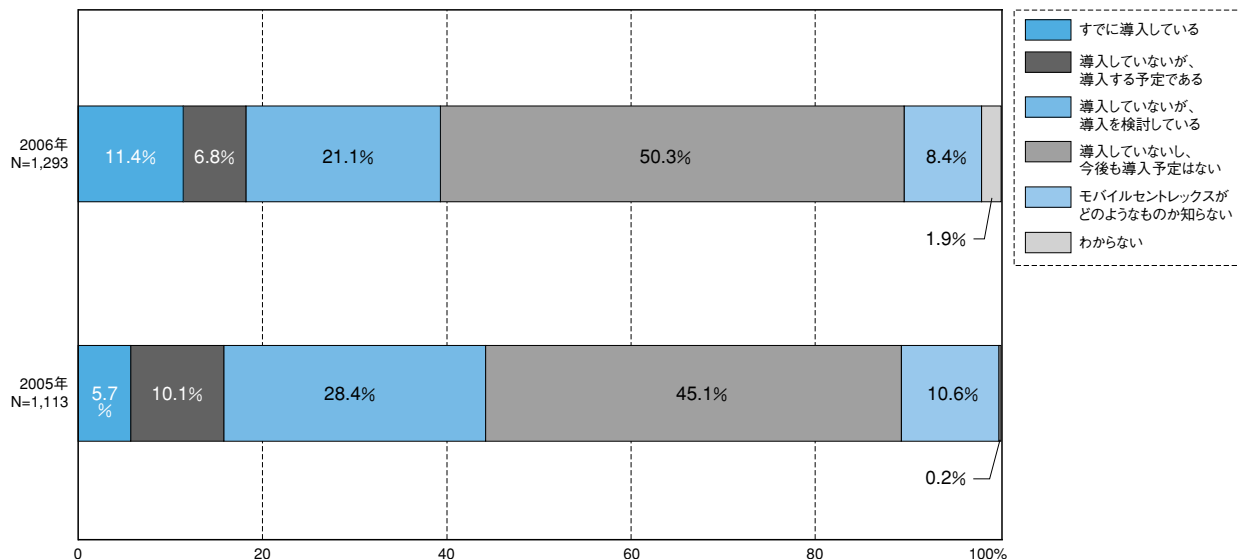


©Access Media/impress R&D,2006

今後、携帯電話の法人契約をする予定があると回答した24サンプルの携帯電話電話事業者の契約先を聞いたところ、現在の利用状況と同様で「NTTドコモ」、「au/KDDI」、「ボーダフォン」の順位であった。サンプル数が少ないため、参考程度にとどめておきたい。

### モバイルセントレックスの導入率は5.7%から11.4%に倍増

資料3-2-17 モバイルセントレックスの導入状況 [2005年-2006年]



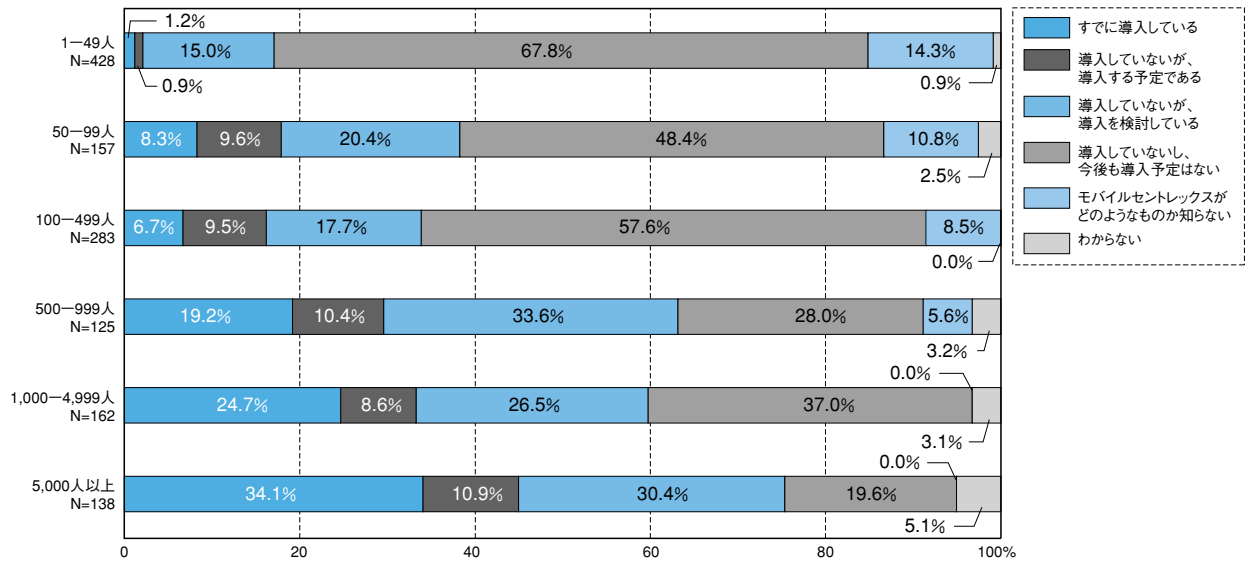
©Access Media/impress R&D,2006

モバイルセントレックスの導入企業は11.4%と1年で倍増している。なお内線通話等で利用できることからIP電話との競合サービスと目されているが、IP電話の利用企業はモバイルセントレックス導入や導入予定の意向がIP電話非利用企業と比較しても高いことから、競合というよりは併用して活用されると思われる。

## 携帯電話とモバイルセントレックス

### 大規模になるほど導入率が高く、5,000人以上で34.1%

資料3-2-18 モバイルセントレックスの導入状況【従業員規模別】

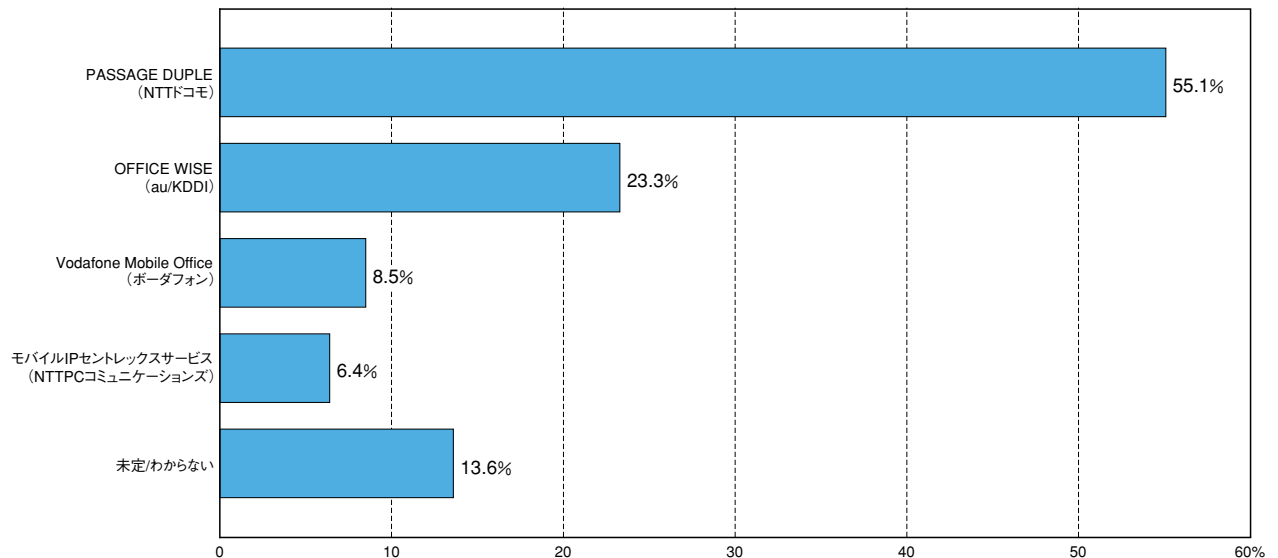


©Access Media/impress R&D,2006

従業員規模別では、大規模になるほど導入率は増加する。また今後導入の予定/検討している比率も高く、積極的に取り組む姿勢がうかがえる。大規模企業は、同じ携帯電話事業者同士のモバイル内線通話はもちろんのこと、IP電話の導入率も高いことから、通信コストの削減に対して徹底した体制を整えつつある。

### NTTドコモのサービスの導入/導入予定率がトップ

資料3-2-19 モバイルセントレックスの導入または導入予定のシステム（複数回答） N=236



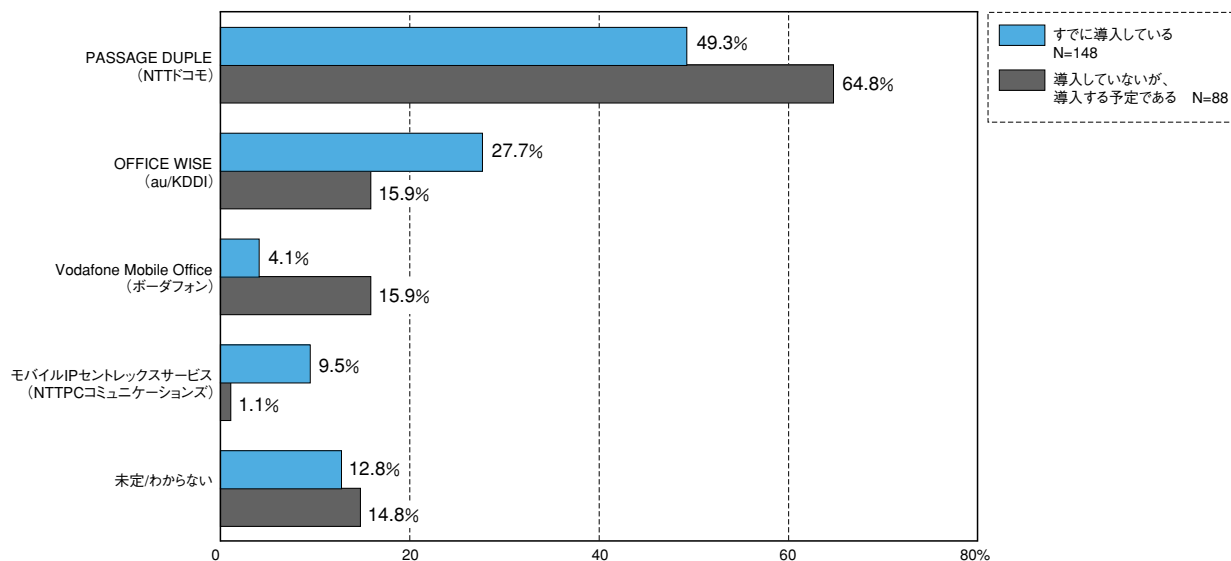
©Access Media/impress R&D,2006

モバイルセントレックス導入および導入予定企業236サンプルの、導入または導入予定システムについて、導入状況別にみたグラフである。システムは、NTTドコモが提供する「PASSAGE DUPLÉ」が55.1%で最も高い。先述した法人向け携帯電話サービスの事業者順位（資料3-2-15）と比例している。

## 携帯電話とモバイルセントレックス

### NTTドコモとボーダフォンの導入予定が高い

資料3-2-20 モバイルセントレックスの導入または導入予定のシステム（複数回答）[導入済みと導入予定別]

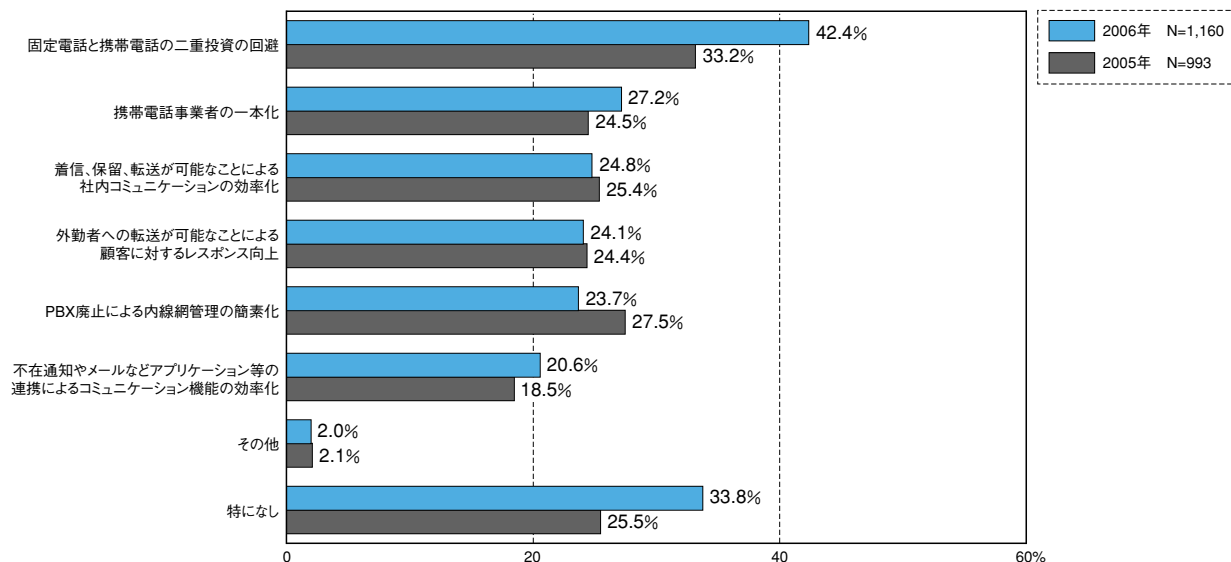


©Access Media/impress R&D,2006

モバイルセントレックスの導入予定システムを、導入済みと予定に分けたグラフである。「PASSAGE DUPLÉ」と「Vodafone Mobile Office」は、導入予定者により高く支持されている。ボーダフォンは、今後ソフトバンクモバイルへの移行により、モバイルセントレックスのような法人ビジネスへの新展開が期待される。

### 期待する導入効果は「二重投資の回避」が42.4%

資料3-2-21 モバイルセントレックス導入で期待する効果（複数回答）[2005年-2006年]



©Access Media/impress R&D,2006

モバイルセントレックス認知者1,160サンプルの導入効果は、「固定電話と携帯電話の二重投資の回避」が42.4%と2005年より9%増となり、コスト削減についてより重視していることがわかる。今後は、固定と携帯電話の融合サービスだけでなく、ネットワーク融合を視野に入れた新サービスが展開されると思われる。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)